

創造学報

Toyohashi Sozo University News



地域・職業教育・人間教育

2025.夏号
VOL.52



P1——特集1 学生たちの活躍にエール!

特別強化指定クラブ 日本拳法部 女子バスケットボール部
エフエム豊橋#盛り上げ隊とのんほい語ろ/市民大学トラム
新城MIRA NOVAプロジェクト

P3——特集2 地域の未来を創造する大学

SOZOふれあいフェス和太鼓演奏&体験/キッズドリームチャレンジ
SO GOOD LIFE Fair

P4——地域の健康を支える

結果発表/看護学科研修会/豊橋創造大学看護学研修センター研修会

P5——研究室から

P6——東三河産学官交流サロン講演

P7——SOZOキャンパスライフスタートDAY/水フェスspring

AI実証実験/みんなでBOUSAIキャラバン/豊橋市教育奨励賞を受賞

エフエム豊橋「#盛り上げ隊とのんほい語ろ」
毎週土曜日8:00~9:00放送中



豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部

特別強化指定クラブ、本格始動

日本拳法部●女子バスケットボール部

2025年度から、日本拳法部と女子バスケットボール部が、本学の特別強化指定クラブとして活動を開始しました。サークル活動の活性化を図り、選手の成長や活躍を通じて、本学の魅力を発信し、地域社会にも貢献する活動をめざしています。



躍進する日本拳法部

●日本拳法部は、2016年に創部。2019年に、サークルのメンバー3名が、第33回日本拳法愛知県民大会の一般の部に出場して健闘したことが、サークル活動の活性化につながり、強化指定クラブの基礎を作りました。2024年には、日本拳法中部オープン選手権大会団体戦で準優勝し、個人戦では短期大学部の学生たちが活躍。2025年度から、特別強化指定クラブとなり、これまで以上に練習に励み鍛錬することで、今期から始まったさまざまな大会の団体

戦、個人戦で好成績を収めています。

●現在部員は、男子4名、女子8名の計12名。経営学部経営学科2年の金子香里奈さんが主将を務めます。監督とコーチは本学卒業生が担うなど、多くの人たちに助けられ、日々練習に打ち込んでいます。

金子主将は、「真剣に取り組み、結果を出す。その達成感が喜び。チームとして互いに助け合い、日本拳法をやってなかったら関わることがなかった人たちと出会え、コミュニケーション能力を高めてくれたと実感しています」と述べ、「大会では、練習の成果を発揮し、他大学の人の『創造大は強い大学』と思われるように存在感を示したい」と、今後への意気込みを語ります。

個人戦で結果を出している高村弓副主将は、「特に制限がなく自由に闘えることが日本拳法の魅力」と話し、「私の場合は今年が最後なので、結果だけでなく、精いっぱい楽しめるように頑張りたい」と笑顔を見せました。井原淑雅



部長は、「学業のみならず、拳法も楽しみ、有意義な学生生活を過ごしてくれたらうれしい」と話し、部員らの頑張りを見守っています。

●神奈川県横浜武道館で6月に開催された第38回全国大学選抜選手権大会では、女子団体がベスト4の成績を収めました。準々決勝で、前年度優勝した京都産業大学を破り準決勝に進出しましたが、準決勝では、強豪校のひとつである中央大学に惜敗という結果となりました。しかし、本学日本拳法部の躍進は、大会の台風の目となり、多くの大学の注目を集めました。目標の一つひとつ叶えながら突き進む姿に、今後の活躍が期待されます。



本格的に始動

女子バスケットボール部

●女子バスケットボール部は2024年度の冬に創部し、6名の部員でスタートしました。今年度、全国大会経験者を含む6名の一年生が入部し、高校部活動で指導校を常に県大会上位入賞に導いていた本多芳隆氏が監督に就任したことで、2025年度から特別強化指定クラブとなりました。現在の部員は、全員保健医療学部で、将来、看護師や理学療法士をめざす学生たちです。

練習は、火曜から金曜までの16時から18時40分まで。経験者が少ないことから基礎練習に力を入れて行っています。部員たちの目標は、8月に行われる大学バスケット4部リーグの試合で結果を出すこと。それに向けて強いチーム力を



付けようと、日々練習に励んでいます。

●主将は、保健医療学部2年の谷山愛実さん。高校時代はサッカー部で全国大会を経験。「サッカーで鍛えてきた体力を生かして頑張る、チームを引っ張っていきたい」と話します。

副主将の鹿毛美月さんは、理学療法学科1年。長崎県島原中央高校2年生の時に全国大会に出場している経験者で、チームのかなめになる選手

です。「学業を頑張るとともに、バスケットとしっかり向き合い、チームメイトと力を合わせてゲームに臨みたい」と意欲を示します。

本多芳隆監督は、部員全員が保健医療学部の学生であることから、「バスケットボールを通して、人をケアする精神、人と向き合い共に進む姿勢を醸成させたい」と話し、「人間的な成長を促し、自分自身の未来を創る場として、バスケットに取り組んでほしい」と期待を寄せています。



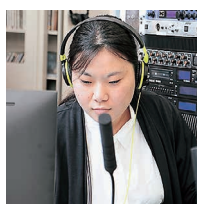
エフエム豊橋で「#盛り上げ隊とのんほい語る」

— 新メンバーによるラジオ番組制作・運営を開始しました —

毎週土曜日8:00~9:00、「やしの実FM」で放送中



「#盛り上げ隊とのんほい語る」は、経営学部経営学科「のんほいパーク盛り上げ隊! (三輪・山口プロジェクト)」の学生たちによるラジオ番組で、2025年1月11日から放送を開始しました。5月から14代目、盛り上げ隊! (新3年生7名) に代替わりし、全員でローテーションを組んで、パーソナリティ2名とミキサー1名で放送しています。6月28日は、平尾桜綾さんがミキサーを、岡田晃矢さんと宮下叶愛さんがパーソナリティを担当しました。この日のテーマは「猛獣エリア」。動物たちの紹介を通して、豊橋総合動植物公園ののんほいパークの魅力を発信しました。



プロジェクトリーダー
平尾桜綾さん
ラジオは、喋るだけの仕事かと思っていましたが、全く違いました。常に色々な

ことに気をくばり、緊張感がずっと付きまとい、それだけに、うまくいった時の達成感は格別です。ミキサーのときはヘッドフォン越しに心地の良い声が聞こえてくると自然と嬉しい気持ちに。大変ですが、仕事に誇りが持てる良い経験ができ、感謝の気持ちでいっぱいです。



岡田晃矢さん
ラジオ本番の会話中に言葉が詰まってしまった時がありましたが、盛り

上げ隊のメンバーや三輪先生のフォローが入り、大きな失敗にならずに済みました。この経験から、自分も人にフォローを入れられるように成長することを目標にしています。今は、緊張しても動物園であった出来事などを話すうちに緊張がほぐれて楽しめるようになっていきます。



宮下叶愛さん
すでに3回の放送を担当しましたが、毎回緊張しながら放送しています。た

くさんの人に聞かれている番組なので、事前の準備や打ち合わせは念入りに行っています。ラジオを含めて、もしこのプロジェクトに参加していなかったらできないような貴重な体験を、いくつもさせていただけて感謝しています。最後まで全力で頑張っていきたいと思います。

豊橋市教育委員会連携公開講座

市民大学トラム

「サステナビリティについて考える」をテーマに経営学部教授が講義

今年度の本学の市民大学トラムは、「サステナビリティ(持続可能性)」について考える」をテーマに、本学経営学部の教授陣が4回にわたって開催しました。5月31日は、見目喜重教授が、「再生可能エネルギーとサステナビリティ」と題して、東三河地域の太陽光発電と風力発電の未来について講演しました。6月7日は、中野聡教授が「欧州諸国とサステナビリティ」と題して、多様な働き方を選択できる社会に向けた働き方改革について欧州の取り組みを

紹介しました。6月28日は、「データサイエンス・AIとサステナビリティ」をテーマに、今井正文教授が、データサイエンス・AIの現在と未来に焦点をあて、将来的な恩恵や弊害について考える入門講座を行いました。7月5日は、上原衛教授が「経営倫理とサステナビリティ(持続可能性)」をテーマに講演。「経営倫理とは、学問と実践という2つの側面をもって規定されている」と述べたうえで、サステナビリティ経営に必要な経営理論について解説しました。



▲見目喜重教授



▲中野聡教授



▲今井正文教授



▲上原衛教授

新城Mira Nova(ミラノバ)プロジェクト[7月5日]

新城市鳥原児童館夏祭りに参加

短期大学部キャリアプランニング科の井原ゼミでは、本学と新城市との「子育て支援に関する連携協定」に基づき、『新城MiraNovaプロジェクト～未来へつなぐ新しい星～』を立ち上げました。「MiraNova」とは、未来(Mira)+新しい星(Nova)の意味を込めた造語です。今回は7月5日に実施された、新城市鳥原児童館の「2025すくすくフェスタ七夕まつり」に参加しました。学生たちは、「輪投げ、ラッキーボール」のイベントを企画・運営。約100人の子どもたちが参加し、喜んでいただきました。学生たちにとっては貴重な体験になりました。



子どもたちの夢を育む

地域に開かれた大学として、地域のさまざまなイベントに参加し、専門性を生かした企画内容で学びを発揮！



イオンモール豊川連携イベント 「SOZOふれあいフェス」

幼児教育・保育科1年生34名が
和太鼓演奏を披露

和太鼓を通して「表現」について学んできた幼児教育・保育科1年生34名が、7月19日（土）、豊川市のイオンモール豊川のセントラルパークで、和太鼓演奏を披露しました。

学生たちは、朝元尊教授の「表現学」の授業で「表現」について学び、その集大成として和太鼓曲を創作し、「SOZOふれあいフェス」に向けて練習を重ねてきました。

演奏は4グループに分かれて行われ、それぞれに曲紹介をしたうえで、演奏を披露。会場には多くの家族連れが訪れ、息を合わせた力強い演奏に聴き入り、大きな拍手を送っていました。

演奏後、学生たちは、会場の子どたちに声を掛け、ステージにずらりと並べた和太鼓を使って和太鼓体験会を行いました。

学生代表と朝元尊教授がリードする太鼓の音に合わせて、一生懸命太鼓をたたき子どもたちを学生たちがサポート。会場には楽しそうな和太鼓の音がにぎやかに響き渡りました。



▲看護師体験(看護学科)



▲理学療法士体験(理学療法学科)



▲保育士体験(幼児教育・保育科)



▲プログラミング博士(経営学科)

子どもたちのお仕事体験 「キッズドリームチャレンジ」 4職種の体験ブースを出展

子どもたちが夏休みに入った7月の2日間、豊川市のイオンモール豊川で、23のお仕事体験ができる「キッズドリームチャレンジ」が開催。本学から7月26日（土）に4職種の体験ブースを出展しました。看護師、理学療法士、保育士、プログラミング博士の4つです。

看護師体験では、ナース服を着た子どもたちが、患者役の保護者の脈拍を測ったり聴診器で心臓の音を聞いたり、キズの手当てを体験。

理学療法士体験では、本学卒業生で現役の理学療法士らが患者役を務め、子どもたちはねんざについて学びなが

ら、足首のテーピングを体験しました。姉妹で参加した小学生は、「結構難しかったけど、二人ともスポーツをやっているので勉強になった」と話していました。

保育士体験では、幼児教育・保育科の2年生が、保育士になりたい子どもたちに、赤ちゃんの抱き方、おむつの替え方、手遊びの仕方などを教えました。

プログラミング博士体験では、経営学科今井ゼミの学生たちが子どもたちにLEDランプのプログラミングをサポート。10人ずつ6回行われ、60人もの子どもたちが参加しました。

4つの職種体験はいずれも大好評で、子どもたちは楽しく体験。学生たちにとっては学外の人とコミュニケーションを図る貴重な体験になりました。

サーラグループ主催イベント 「SO GOOD LIFE Fair」に 幼児教育・保育科2年生が参加



5月18日、豊橋市のサーラプラザ豊橋でサーラグループ主催の「SO GOOD LIFE Fair 暮らしを彩る学びの森」が開催され、幼児教育・保育科の加藤克俊ゼミの学生たちが出展。ワークショップ「おえかきマジック〜キミだけのオリジナル缶バッジをつくろう!」を行いました。学生たちは、会場に訪れた子どもたちと楽しく話しながら、缶バッジづくりをサポート。参加者の中には何個も作る子どもたちもあり、楽しんでいる様子が会場に広がりました。



本学は、三遠ネオフェニックス2024-25シーズンの
オフィシャルパートナーとなりました。

地域の健康を支える

本学保健医療学部では、地域の人たちの健康を支える、また、教育の質や地域における臨床看護の質の向上を目的に、学内外においてさまざまな講演や研究、研修会を行っています。

成果発表

理学療法学科の彦坂潤助教らが、運動チェックアプリ「PoseS」を開発

2024年4月 から翌年3月までの1年間、運動セルフチェックアプリの開発に取り組んできた理学療法学科の彦坂潤助教らは、今年の4月、「AI技術を活用したユーザーフレンドリーな運動セルフチェックアプリの開発」と題して研究成果を発表しました。

近年、スマートフォンやタブレット端末を使って個人が日常的に健康管理を行う機会が増えていることに注目し、撮影した2

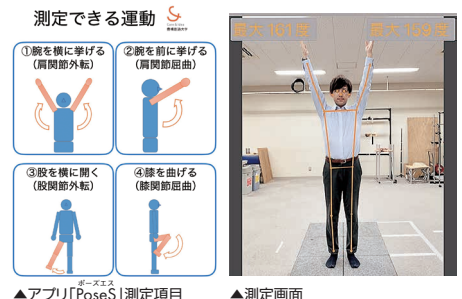


▲彦坂潤助教

次元動画をもとに姿勢推定を行う技術を使って、誰もが容易に自らの関節運動の状態を確認できるアプリを開発しました。アプリ名は「PoseS」。

アプリの有用性を検証するために、豊橋市内にあるサーラスポーツ（スポーツクラブ）の利用者など254人に対してアプリ体験とアンケートを行いました。その結果は、今後の開発に反映させていきます。

彦坂潤助教は、「これまでヒトの動作の特徴を捉えることで、怪我の予防や最適な動作指導へ繋げる研究を行ってきました。今回のアプリ開発の研究は、この知見



▲アプリ「PoseS」測定項目

▲測定画面

を活かすことで、より精度の高い動きの計測を行うことが出来ていると考えています。今後は、更なる健康意識向上への貢献、医療機関での診療補助、運動時の関節角度算出を可能にするアプリを目指していきます」と語りました。

看護学科研修会

京都橘大学の奥野信行教授を講師に迎えて実施



7月7日、看護学実習施設を対象にした2025年度「実習指導に関する研修

会」を、本学で実施しました。対面とオンラインを併用して行われ、約50人が対面で受講しました。テーマは、「臨地実習における効果的な考え方とかかわり方」。講師に、京都橘大学看護学部・大学院看護学研究科教授で、看護教育センター長の奥野信行教授を迎えて行われました。

奥野教授は、ケーススタディを通して実践的な指導力を育む「実習指導者と看護教育の協働学習会」を実施しており、本学でも、その実践を踏まえた講義とグル



◀講義する
奥野信行教授

ープワークが行われました。

蒔田寛子学科長は、「学生支援の質の向上につながる貴重な学びの場になりました」と述べ、「実習指導者の皆様と共に良い実習を考えていきたい」と今後への目標を示しました。

豊橋創造大学看護学研修センター研修会

2025年度「家族支援の事例研修会」に約20人が参加。

6月14日、「豊橋創造大学看護学研修センター」は、今年度第1回の「家族支援の事例検討会」を実施しました。市内外の看護師、保健師、介護支援専門員の皆さん約20人が参加し、家族支援を必要とする社会背景や支援の方法について学びました。

講義では、本学看護学科の山口直己准教授が、「事例検討は、実際の患者や家族とのかかわりの中で困難を感じた時に支援の糸口を見つけるための有効な方法」と説明。事例検討会では、「渡辺式家族アセスメント／支援モデル」を使用してグループワークを行い、家族支援について理解を深めました。

参加者の皆さんから、「事例検討の実



際の取り組み方がよく分かった」「現場で活用してみたい」などの感想があり、家族支援への意欲を高める研修会となりました。毎回、トピックスを取り上げるミニ講座では、蒔田寛子学科長が「2040年問題と地域医療構想」をテーマに講演し、今後の地域医療について考えました。

●保健医療学部 理学療法学科

人体の神秘と多様性に触れる

解剖学という医学の基礎を担う学問を専門としています。解剖学は、人体や生物の構造を深く理解することで生命の神秘に迫る、魅力的な学問です。この探求は、科学的好奇心を刺激し、医療や研究の現場での応用にもつながります。

解剖学の教育では、献体として提供された貴重な標本や資料を取り扱います。そのため、単に人体の構造を学ぶだけでなく、生命の尊厳や感謝の念を

深く理解することが求められます。これは、医療人としての倫理観や人間性を育む重要な機会でもあります。

豊橋創造大学の教員として、専門的な知識や技術の習得に加え、医療人としての高い倫理観と豊かな人間性を備えた人材の育成に努めています。学生一人ひとりが、地域社会に貢献し、信頼される医療人として活躍できるよう、全力で支援してまいります。

西 啓太

保健医療学部 理学療法学科 講師

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程修了。博士(医学)。理学療法士として診療所や総合病院で勤務し、その後長崎大学歯学部解剖学教員を経て現職。



●保健医療学部 看護学科

子どもの学びや人とのつながりを 継続する支援＝「子どもの居場所」づくり

私の研究テーマへの取り組みは、大学病院の小児病棟で長期入院の子どもの看護に携わったことから始まりました。就職2年目、入院中の生活習慣や学習習慣を整えることを目的として学童期の子どもをプレイルームに集めた病棟学級の効果について研究しました。3年目に病院内に院内学級が開設され、子どもたちはパジャマから普段着に着替え、楽しそうに院内学級に登校していたことが印象に残っています。2000年代以降は、

インターネット通信の活用が復学に与える影響等の研究を行いました。2020年代、GIGAスクール構想と学校内のICT整備が進んだ頃、卓上型ロボット(テレロボ)を活用した病院と学校とのオンライン交流の研究を行い、現在は普及活動を行っています。

子ども同士がつながる方法は時代とともに変化していますが、子どもがそこに存在する場をつくるのが、子ども同士がつながるための支援だと思っています。

河合 洋子

保健医療学部看護学科 小児看護学教授

名古屋市立大学博士(医学) 名古屋市立大学病院小児病棟で看護師として勤務。名古屋市立大学講師、複数の大学で教授として勤務。2022年より現職。



●経営学部 経営学科

実務経験と教育・研究実績に基づき 地域に貢献できる人材育成に尽力

不確実性が高まっている現代社会における企業活動・経営の質(クオリティ)に関して、ファイナンス(財務的側面)のみならず、社会的責任やSDGsなどの経営倫理や人的資源管理などの非財務的側面も考慮に入れた経営品質に関して、金融論、経営学、商学、工学の学際的側面で研究を行っています。また、銀行員時代の実務経験と教育・研究実績に基づいて学生のみなさんを指導し、実社会に役立つ社会人として必

要なスキルと創造性を磨き、地域に貢献できる人材育成に尽力していきたいと思っています。

ゼミでは、経営資源の、ヒト(Man)・モノ(Material)・カネ(Money)・情報(Information)である3M+Iのうち、「ヒト」と「カネ」と「情報」を取り扱い、これらを融合させた「経営管理」「経営戦略」を学習し、研究・実践し、仲間との活動を楽しみながら学んでほしいと思っています。

上原 衛

経営学部 学部長 教授

早稲田大学大学院博士後期課程修了(博士(工学))。修士課程修了後、東京銀行(合併後、東京三菱銀行)に入行し、22年勤務。愛知淑徳大学に22年間勤務後、2025年4月より現職。



教員データブック

本学に所属する教員の情報をHPで公開しています。
教員は、研究分野・研究キーワードから検索できます。

研究分野・研究キーワードから検索



●短期大学部 幼児教育・保育科

大学とは何か？ 過去を知り、今を見定め、未来を考える

大学とは何か、考えたことはあるでしょうか？19世紀末(100年以上前)のフランスにて、ルイリアールという人物は、大学(université / university)と学校(école / school)の違いについて鋭く論じました。「大学」はあらゆる学問に開かれてそれを統一するものとした上で、当時の大学は知的活動と学問的探究を欠いているがゆえに「学校」であると批判したのです。ドイツとの戦争に負け、フランスの知的な後進性が問題視された時代において、

その発展／再生の希望は、学問的に閉じ、かつ既存の知識を学生に一方的に教えることに終止して知の生産拠点たてていなかった大学が「学校」であることを脱して「大学」になることに託されていました。

現在の日本には大学が800校以上存在しています。私たちににとって身近な存在となっている大学ですが、「大学」という名を冠している以上、私たちに「大学とは何か」を問う姿勢が求められているのだと思います。

大矢龍弥

幼児教育・保育科 講師

広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程後期単位取得退学。修士(教育学)。2925年度より現職。研究分野はフランス大学史。



●短期大学部 キャリアプランニング科

地域企業ネットワークと学びの共進化 実践教育を基軸とした産学連携の歩み

東三河地域を中心に地域企業の戦略連携やネットワーク形成についての調査・研究を行っています。当地域は、産業構造のバランスも良く、同業種・異業種の交流も盛んに行われています。

この研究は、本学教育の特徴である実践的カリキュラムであった学生チャレンジジョブやビジネスプランコンテストに携わる中で得た企業や支援機関との交流がきっかけとなっています。今から10年以上前、ある食材加工をテーマとする新

商品開発研究会に学生と参加しました。参加されていた加工メーカーの開発担当者の真摯な姿は、学生にとっては大変貴重な経験となり、また、私も、他社の知識やノウハウをいかに自社に浸透させるのかというテーマを得ました。そこから、他大学の研究者と共に調査研究を行ってきました。現在は、これらの成果をまとめ、出版の準備をしています。引き続き、地域企業や学生の実践的教育に還元できるように取り組んでいきたいと思っています。

花岡幹明

短期大学部キャリアプランニング科 科長・教授

早稲田大学大学院商学研究科修士課程修了(商学修士)。同大学院研究科博士課程修了。2012年より、東三河ビジネスプランコンテスト実行委員長を務めている。



災害発生後の リハビリテーション医療活動について 東三河産学官交流サロンで講演

3月18日、「東三河産学官交流サロン」で、本学保健医療学部理学療法学科の塚田晋太郎助教が「災害後のリハビリテーション医療活動と災害関連死の予防」をテーマに講演しました。

リハビリテーション専門職種などで構成されているJRAT(日本災害リハビリテーション支援協会)での活動経験を踏まえ、災害発生後の災害関連死のリスクについて示しました。

「災害への備えは地域や個々の状況によって大きく異なるため、画一的な対策ではなく、個別性の高い避難計画の策定が重要である。今後は、これまでの災害医療支援の経験や東三河地域における調査結果を踏まえ、より支援が必要なターゲットを明確にした効果的な支援策を様々な業種の方と進めていきたい」と話しました。

JRAT所属
保健医療学部理学療法学科
塚田晋太郎助教

*「東三河産学官交流サロン」は、産学官民の連携を深め、地域社会の発展に貢献することをめざして活動している東三河懇話会の活動の一つです。



4/26

「SOZOキャンパスライフ
スタートDAY」

初年次教育の一環として、全1年生251名を対象に行われた学部学科横断型教育プログラム。伊藤晴康学長による合同授業「建学の精神」受講後、2限目は、21チームに分かれて大学施設探索スタンプラリーを実施。他学科の人たちとの交流を図りました。



4/13

水フェス2025
Spring

豊橋鉄道株式会社・赤岩口倉庫にて開催される「市電の日」イベントに合わせて、豊橋市の水道施設の春の一般公開イベントが行われ、本学は、キャリアプランニング科の瀧崎ゼミの学生たちが、上下水道局広報グループの職員と協力して、ゆりえ缶バッジ制作ブースを出展。子どもたちに楽しんでもらいました。



6/4

AI(人工知能)による
実証実験を体験

社会学を専門分野とする辰巳智行准教授が担当する教養科目「社会システムと人間」で、保健医療学部看護学科1年生72名がAI実証世論調査システムを使った実証実験に協力。「豊橋新アリーナ事業と住民投票」を題材に行われ、クイズと解説で理解を深め、AIのつくる仮想人物との議論を体験しました。



8/3

時東あみ企画「みんなで
BOUSAIキャラバン」
に手話サークルが参加

本学手話サークルHANDSが豊橋手話ネットワークと共同で出展。ブースでは指文字スタンプを使って葉づくりを、ステージでは「耳の不自由な人が困ること」をテーマに寸劇と防災紙芝居を上演。「地震」「津波」「逃げて」「危ない」などの手話を紹介し、会場の人たちと一緒に実演しました。



●教育奨励賞とは
学校教育、学校保健衛生、社会教育など、教育に関する分野において、その振興・発展に貢献された個人または団体を表彰するものです。

豊橋創造大学手話サークルが豊橋市教育奨励賞を受賞

2025年8月1日(金)、本学手話サークルは、豊橋市制施行日記念式典において、豊橋市長より教育奨励賞を受賞しました。本学手話サークルは、平成22年に、保健医療学部看護学科1期生ら有志によって設立され、翌年の東日本大震災が発生した際には、いち早く聴覚障害者の防災対策をテーマとした活動に取り組み、支援活動を展開しました。現在は、看護学科のほか、幼児教育・保育科の学生らも加わり、防災紙芝居の読み聞かせ活動や、豊橋市愛市憲章ソング「つつじ」に手話を付けて歌う活動など、幅広い活動を行っています。これら歴代の会員から受け継いできた活動が評価され、今回の表彰となりました。今後の活動としては、10月26日(日)に「防災フェス2025」を予定。地域の方々や、聴覚障害者協会の方々と、防災についての学びの場にしたいと思います。



豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部

豊橋創造大学

保健医療学部 理学療法学科
保健医療学部 看護学科
経営学部 経営学科

豊橋創造大学短期大学部

幼児教育・保育科
キャリアプランニング科
公務員別科

豊橋創造大学大学院

健康科学研究科 健康科学専攻

